

meiji 駿台倶楽部会報

明治大学野球部OB会ニュース

発行 駿台倶楽部
 会長 吉川 芳登
 府中市若松町5-6-1
 明治大学野球部合宿所内
 電話番号 (042) 313-4134
 F A X 番号 (042) 364-5605

宗山主将離脱も 選手の団結力 9勝4敗2位

新



最後までV争い

令和6年度の東京六大学野球春季リーグ戦は4月13日、神宮球場で開幕。第2週からの登場となった明大は東大に連勝、しかし早大に1勝2敗と勝ち点を落とした。第5週からの対戦では宗山塁主将（4年II広陵）を欠く厳しい戦いとなったが、遊撃には光弘帆高（2年II履正社）が入り奮闘。立大、慶大、法大から勝ち点を奪取。9勝4敗の勝ち点4、2位で終了した。

2月末のオープン戦で宗山が右肩甲骨を骨折。2カード出場したが、その後は上半身の体調不良で欠場。攻守の中心を欠く中で選手が団結。最後は早大の完全Vとなったが優勝の可能性を最後まで残す戦いは立派だった。

ベストナインには木本圭一（二塁手）（3年II桐蔭学園II初）、飯森太慈（外野手）（4年II校成学園II2回目）が受賞。最優秀防御率のタイトルは1・38をマークした高須大雅投手（3年II静岡II初）がうれしい受賞となった。

またジャパン大学代表に高須、小島大河捕手（3年II東海大相模）が選ばれ、7月のチェコ（プラハ）、オランダ（ハーレム）の国際大会に出場した。

試合後、スタンドに挨拶する宗山主将（右から2人目）と田中監督（右端）

0勝男の開花宣言 高須最優秀防御率



（左から）今季3勝を挙げエース格に成長した高須。最優秀防御率賞を獲得



大学日本代表にも選ばれた!!

早大2回戦で初先発7回わずか3安打
リーグ戦前まで0勝の男が、ジャパン大学代表の座を射止めるほど成長した。

監督もうなつた…
「そうは打てない」
初勝利をしっかりとつきました。

早大1回戦で6回に連打を浴びて4失点した
が、それまでは完璧な投球。首脳陣の信頼は揺るがなかった。

早大1回戦も7回5安打、9奪三振。投手陣の軸となる男に成長。防御率もトップタイとなり、法大3回戦では9回の1安打を抑え規定投球回数に達した。

最速153km右腕 一般入試の星、松本直 7試合登板防1.93

1勝&1セーブ
今季、彗星のように現れたのが2年生右腕・松本直（鎌倉学園）だった。1年80、93kmの体格から投げ下ろすMAX153kmの重いストレートに変化球を交え春のオープン戦から好投。田中監督の目に留まり神宮デビューとなった。



9回裏、救援・千葉がつかまり1点差になってなお1死一、三塁。同点は仕方ない場面に登板し三振、遊ゴロに仕留めマウンドで雄叫びをあげた。「もう全試合必死、無我夢中で投げました。慶大戦はゾーンに入っていたというか、同点とか考えず絶対抑えてやると思っていました」とアマ野球に「セーブ」の記録はないが値千金のセーブだった。

は高校の先輩・中村凌輔捕手（3年）がおりが「高校のときに中村さんが指導に来てくれ、自分もレベルの高い明治でやりたいと夏以降予備校に通いました」と見事合格し神宮切符をつかんだ。

堅実な守備と繋ぎ役で 宗山の穴埋めた 光弘帆高



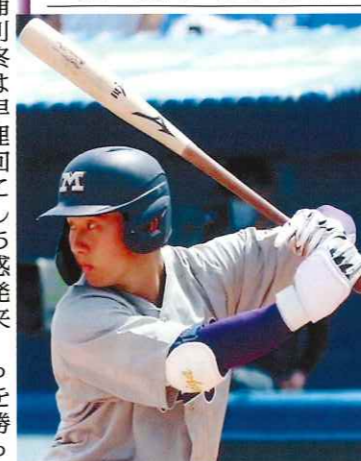
光弘 帆高（みつひろ・ほたか）04年4月23日生まれ20歳。6歳から池田少年団（神戸＝軟式）で野球を始め、神戸ボーイス、履正社。甲子園には出場していないが、大型遊撃手としてU18—高校日本代表に選ばれW杯銅メダル獲得に貢献した。父・卓矢さんは90年、津和野（島根）で甲子園に出場している。憧れの選手は稲葉篤紀氏。当初右打ちも稲葉氏に憧れ左に転向した。1年78、80km、右投げ左打ち。

立大戦から遊撃スタメン
宗山欠場の穴を埋めたのが2年目の光弘帆高（履正社）だった。三塁で使われていたが、立大戦から本職の遊撃でスタメン出場。堅実な守備で無失策、打撃でも規定打席には届かなかったが打率・286をマーク、繋ぎ役として活躍した。



エース候補と言われたが、シーズン終りに終わってしまっただけで、シーズン途中から3番を任せられ打率2位の成績を残した小島河

友納のアドバイスで打撃開眼
ドラ1候補左腕から2安打!!
「宗山さんがいるから出るの3年からかな」と思っていた。すくなくとも、友納に言われて変わったとシーズン中を振り返る。飯森が宗山よりいいぞと声をかけるなど、攻守に存在感を示したシーズンだった。



シーズン途中から3番を任せられ打率2位の成績を残した小島河

宗山の代役として攻守で活躍した光弘
「う」という意識が指揮官には消極的に映った。「あの一言で、よし、前に積極的に出て守ろう。」と攻めの守りで再三のピンチを防いだ。

小島 攻守でリーダーに成長
打率・381（2位）と打線の軸として活躍したのが小島。宗山欠場の試合は3番を任せられ、捕手として投手陣をリードした。ペナントインは惜しくも印出（早大）に譲ったが、文字通り攻守でリーダーに成長した。

春季リーグ初出場選手
＜投手＞東大①松本直②＝3回を2失点。山田④＝

＝8番三塁、2安打2打点。津田②＝守備起用1三振。光弘②＝代打で遊ゴロ。秋元④＝代打で三

振。中山④＝8回の守備で出場。東大②衛藤③＝代打で三振。＝名前の下の○数字は学年＝

"苦勞人"山田サイド転向で2勝



最終学年で初登板し2勝を挙げた山田

**3年冬に自らスタイル変更
OP戦で死球覚悟
右に内角攻め徹底**

4年の最終学年になって神宮のマウンドを踏んだのが山田翔太投手（札幌第一）だ。スポーツ推薦で入学したものの3年間は鳴かず飛ばす。ベッチャリ要員にもならなかった。そこで山田はある決断をする。3年冬のことだ。それまでオーバースローの投げ方をサイドスローに変更。懸命にフルペンドで投げ込んだ。

「ボクはこれと違って特徴のない投手だったので、このままではダメだ。どうしても神宮で投げたかったし、打者の嫌がる投手になろうとサイドに変えました。その投げ方したら球速も上がったし、自分でも投げやすかった」

普通、コーチの進言でスタイルを変更する例は多いが、自分の意思で変更。コーチから「右打者の内角を突けないと使えない」と言われ、オープン戦でも死球覚悟で内角攻めを徹底した。制球力が上がり外角への変化球がより有効になるなど、相乗効果でベンチ入りを果たした。

チーム開幕の東大1回戦で救援して初登板初勝利。法大3回戦でも同点の8回、1イニングを無失点に抑えその裏、中山の決勝2ランが出て2勝目がついた。開幕戦と最終戦で白星。苦

女性初の主務 岸上 仲間鼓舞

①…女性初の主務としてシーズン中ベンチに入りナインを鼓舞するのが岸上。スコアをつけながら常にベンチに最前列で試合を見守った。宗山を日本一の主務

「女性初の主務としてシーズン中ベンチに入りナインを鼓舞するのが岸上。スコアをつけながら常にベンチに最前列で試合を見守った。宗山を日本一の主務



主務としてベンチに入りチームを支えた岸上

「どうしても神宮で投げたかった」

苦勞人らしい2勝ではないか。チームにはいないタイプのサイドスロー。だが、秋にベンチ入りできる保証はない。現在、新球シンカーを習得中で、マスターできれば秋に向けての武器になる。

山田 翔太（やまだ しょうた）03年1月10日生まれ、21歳。少年野球の監督をしていた祖父の影響で小学校から野球を始め、札幌新琴似シニア（硬式）札幌第一高2の選抜大会に出場した。山梨学院と対戦。先発したが7失点で負け投手に。趣味はプロレス観戦。好物はラーメン。1対78、87時、右投げ右打ち。今季中継ぎとして2勝をマークした。

2024年度 1年生名簿				
ポジション	氏名	身長	体重	出身校
投手	浦久室	179	68	日本航空石川
	亮満	188	85	高松商
	高斗	171	73	高松中
	海斗	188	90	山梨学院
	林斗	178	76	山梨学院
	田斗	180	84	山梨学院
	湯斗	181	85	山梨学院
	渡斗	182	86	山梨学院
	佐仲	181	82	山梨学院
	高橋	180	80	山梨学院
捕手	豊藤	177	76	山梨学院
	喜愛	170	76	山梨学院
一塁手	中野	185	99	桐蔭学園
	鶴飼	173	70	桐蔭学園
二塁手	磯進	178	80	作新学院
	藤正	178	83	作新学院
遊撃手	伊藤	177	72	桐蔭学園
	河田	175	75	桐蔭学園
外野手	片桐	177	76	明大
	田家	174	75	明大
アナリスト	田口	164	67	長川女子
	有川	167	58	明大
マネージャー	守谷	180	68	明大
	宇賀	164	64	明大
	小石	163	63	明大

今年もマネージャー4人、アナリスト1人が入部。OBの方々、よろしくお願ひします。

◆マネージャー
有川 駿佑（明大八王子）
宇賀 神有海（宇都宮女子）
自分のできる以上、チームに貢献できるように一生懸命頑張ります。

◆アナリスト
田口 ゆき乃（長川女子）
チームに貢献できるように一生懸命頑張ります。

＜駿台倶楽部・関西支部報告＞
3月7日、センバツ大会に出場する日本航空石川の中村隆監督の激励会を大阪市内のホテルで。OB11人が参加した。

3月20日から。兵庫県内にあるボーイズ、ヤング、リトルシニア3連盟32チーム（約650選手）が参加した第11回「夢」兵庫県硬式野球親善交流大会「MEIJI CUP」（大会会長・竹内園関西支部長）を開催。OBが協力して大会を成功させた。

4月27日。山口松陰高校の野球部創部にあたり平成21年卒の西山一郎氏がコーチに就任。大阪市内で創部パーティーが開かれ善波達也前監督も駆けつけ西山氏を激励した。なお同氏の父・正志氏（前大阪学院大監督）が監督に就任する。



清元秀泰姫路市長を迎えて開催された「MEIJI CUP」

湯田が神宮に降臨 片鱗見せた初先発



初回4失点も…6回まで毎回の7K

**順位決定戦の法大戦で
ファンの中で最も注目を集めたのが湯田**

統真投手（1年＝山梨学院）だ。高校2年の夏、東北初の甲子園優勝を飾り、昨年は背番号「10」ながらエース格としてフル回転。惜しくも甲子園連覇は成らなかったが準優勝に輝いた右腕だ。

各校の1年生が神宮デビューを果たす中、明大だけは田中監督の意向でじっくり鍛えてフレッシュトーナメントの立大戦で力

選手	明大	立大	早大	明大
フレッシュトーナメント	0	0	0	0
新人戦	1	2	0	0
（新人戦のみ出場）	0	0	0	0
6月3日から	0	0	0	0
4日間、神宮球場で行われた	0	0	0	0
予選リーグB組	0	0	0	0
の明大は2分の	0	0	0	0
2位となり、	0	0	0	0
4位決定戦に臨	0	0	0	0
み法大に逆転サ	0	0	0	0
ヨナラ勝ちで3	0	0	0	0
位で終了した	0	0	0	0
この大会で多く	0	0	0	0
の新人がデビュー	0	0	0	0
し、選手たちが躍動した	0	0	0	0

「神宮のマウンドがフィットした」

きた。そしてフレッシュで神宮のマウンドを踏んだ。予選リーグの立大戦では9回の1イニングを無安打投球。6日の順位決定戦では先発を任せられ力投した。初回に自らのバント処理ミス、死球に安打を許して4失点（自責0）。最悪の立ち上がりであったと反省したが、2回以降、6回まで得点を許さず毎回の7K。3回のアウトはすべて三振だった。

「2回以降、外角のストレートが決まりだして変化球も良くなった。神宮のマウンドがフィットした感じだ。これが本来の姿。ネット裏で観戦した田中監督へアピールができたようだ。それでもチームにはいい投手が多いし、もっと制球を磨かないとダメ。使ってもらえる投手、信頼される投手になれるよう夏にしっかり取り組みます」と秋に向けて決意を口にしていた。



昨春の選抜優勝投手・林も安定した投球を見せた

中野 左翼へ豪快弾

①…打者では1対85、100時の大型選手、中野峻介（1年＝桐蔭学園）が楽しみ。早大戦では6番一塁手としてスタメン出場。2安打1打点と結果を出した。法大戦では4番DHに抜擢され、1回に左翼席へ2ランアーチ。スタンドで応援した上級生を喜ばせた。指定校推薦で入学。左打者の多いチーム事情から右の大砲は貴重な存在だ。

1対88大型左腕 大室3失点も…伸びしろ感じる

①…1対88の大型左腕・大室亮満（1年＝高松商）も早大戦にデビュー。5回から2番手として登板。3者凡退のスタートを切ったが、2死目となった6回に先頭から2者連続の四球。ここから安打と敵失などで3点（自責0）を失った。まだまだ制球と体の弱さが感じられ、多少時間はかかりそうだが体幹を鍛えれば「左の高須」になれる可能性を秘めている。

守備が光った河田 バットでも1安打

①…その他でも、立大戦で遊撃を任せられた河田凌太郎（1年＝愛工大名電）の守備は光った。高校時代に視察した福王コーチが「（河田の）守備はいいねえ」と絶賛。バットでも1安打を

放ちキラリと光るものを見せた。法大戦で代打で安打を放ちサヨナラにつなげた高橋慎捕手（同＝大垣日大）、途中出場の佐仲大輝捕手（同＝山梨学院）、磯圭太内野手（同＝作新学院）、半田真太郎内野手（同＝健大高崎）、萩宗久外野手（同＝横浜）らが出場した。

フレッシュで1年生デビュー

骨折の影響大きく…5戦出場もわずか4安打

宗山本塁打でラスト

春の悔しさは秋に晴らす!!



悔しいシーズンだった
…試合中、戦況を見守る宗山主将

明大というより六大学野球の「顔」ともいえる宗山主将が苦しく、悔しいシーズンを送った。

シーズン前のオープン戦で右肩甲骨骨を骨折。開幕には間に合ったが、後半の3カードは上半身の不調で欠場。リーグ最多安打更新も絶望的となった。体調は回復し秋への巻き返しに期待だ。

上半身の不調

小学校入学前から始めた宗山の野球人生で一番の苦しい時となった。東大早大の2カードは3番・遊撃の指定席で出

長打力へ動作解析導入

①…4年春が終わって98安打。現役ではダントツのトップだが、本塁打は8本のまま3シーズン出ていない。そのため、長打力を磨くため動作解析も

リーグ最多安打更新絶望的も

取り入れ、フォームをチェック。今までにない迫力あるスイングになりつつある。コンタクト率は多少落ちるが、相手投手は脅威を感じるはず。夏の練習で完成を目指してバットを振るつもりだ。

場したが5試合でヒットはわずか4本。骨折から急仕上げでリーグ戦に臨んだが「打席数はそれなりに消化したんですが、シートバッティングと実戦での投手のボールは違いますから。自分のポイントでしっかりつかまえられるなかった」と5試合を振り返った。

空き週を挟んで3週連続の対戦。しかし宗山は神宮のグラウンドに出ることはなかった。「上半身のコンディショニングです」(田中武宏監督)との発表はあったが、自己管理できる宗山だけ

「自分のできることはしよう」ベンチ外れずナインを支えた

「監督からベンチ入りはどうする?と聞かれます。自分のできることはしようと思っ



「代役を務めた光弘は「守備位置とか打撃面でも宗山さんに聞きながらやっていました」と主将のアドバイスでリーグ戦を乗り切った。

「監督からベンチ入りはどうする?と聞かれます。自分のできることはしようと思っ



プロの評価不変

①…春は欠場の多かった宗山だが、プロの評価は変わらない。「宗山を獲得したら10年、ショートの悩まなくていい」とも言われている。

と決して下は向かない。

7月から始動

広陵1年秋、山陽との練習試合で右手首に死球を受け骨折。全治2〜3カ月の診断を受けた。このときはオフシーズンに入り、試合のない時期だった。今回はリーグ戦真っ最中の欠場。それだけに本人の無念さは計り知れない。体調は回復、7月から本格的に始動している。

いよいよラストシーズン。「本場にラスト。打撃はコンスタントに打てる、守備も安定したプレーをしたい」と話す。春(8)途中だった打撃フォーム改造もこの夏に仕上げるつもり。この悔しさは神宮でしか晴らせない。宗山は必ずやる!